

経済・金融フラッシュ

No.07-101 2007/11/08

10月マネー関連～金商法、サブプライム問題で投信の伸び率鈍化

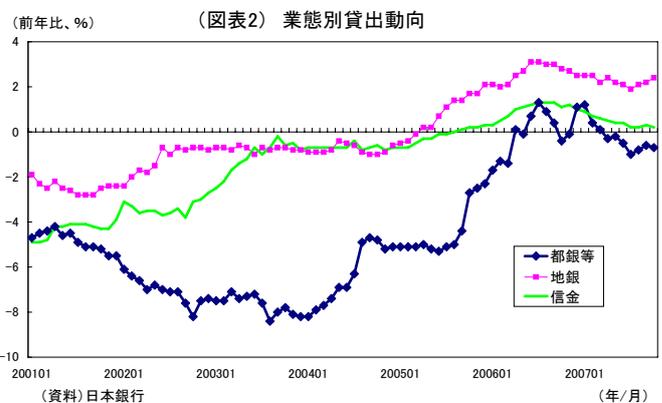
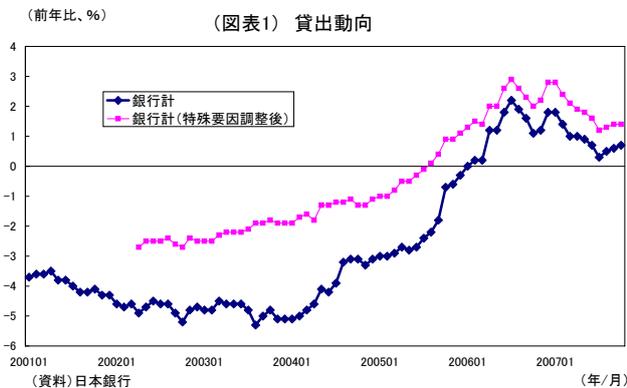
ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：3ヶ月連続伸び率アップ

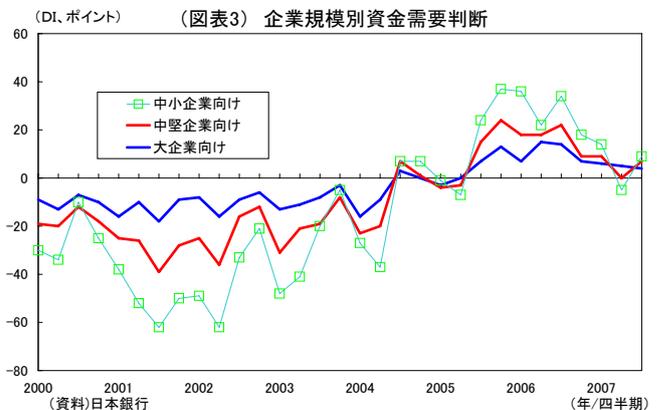
日本銀行が11月8日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、10月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.7%と21カ月連続のプラスとなった。伸び率は3ヶ月連続上昇した（図表1）。

業態別では、都銀等は同▲0.7%と7カ月連続で前年比マイナスが続いているが、地銀は3ヶ月連続で伸び率が上昇、2%台の伸びが続いている（図表2）。



四半期1回の主要銀行貸出アンケート調査（直近10/23日公表）では、大企業の資金需要は昨年の夏場以降頭打ちの状況にある。

また足元中堅・中小企業の資金需要が改善しているとは言え、昨今の経済状況からすればダウンサイドリスクが高まっていることは事実で当面、動向が注目だ（図表3）。



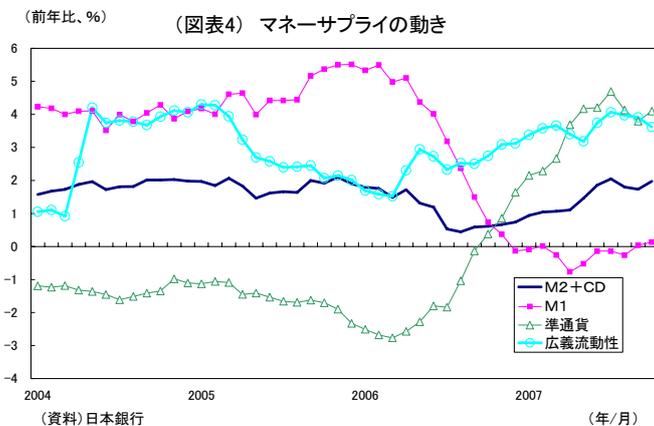
2. マネーサプライ、マネタリーベース：投資信託の伸びが減少

マネーサプライ統計（11/8日公表）によれば、10月のM2+CDは前年比2.0%と7月以来の2%台に回復した（図表4）。

M1は9月0.0%から10月0.1%と減少から増加のトレンドに変わりつつある。

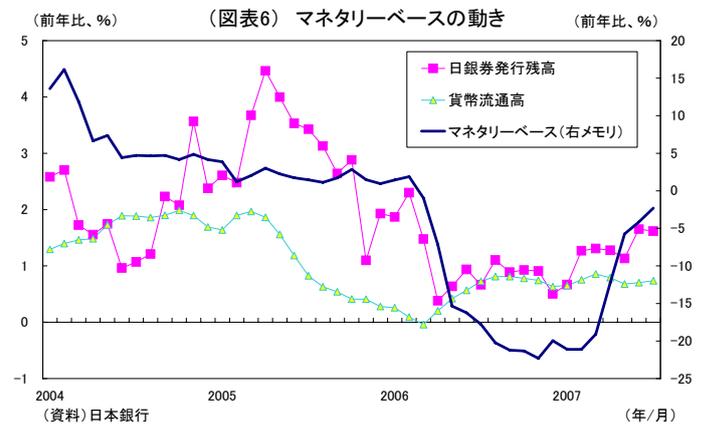
広義流動性は、金商法、サブプライム問題の影響などから投資信託の伸び率（8月33.5%、9月31.8%、10月30.0%）が落ちてきていることなどが響き、8月4.0%、9月3.9%、10月3.6%と伸び率低下が続いている（図表5）。

投資信託減少の動きが一過性にとどまるのか今後要注意だ。



10月分マネタリーベース（11/2日公表）は、前年比0.5%と3カ月連続のプラスとなった（図表6）。

日銀券発行残高1.7%、貨幣流通高0.9%は比較的安定した動きとなっている。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

（Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載）